



本プレスリリースは Danone (本社:フランス・パリ、CEO:エマニュエル・ファベール)が 2018 年 7 月 27 日(現地時間)に発表した英文リリースの抄訳です。

報道関係各位

2018 年 8 月 21 日  
ダノンジャパン株式会社

## 2018 年上半期の業績 不安定な状況において強力な財務業績を達成

- 経常的 EPS は恒常為替レートで二桁成長:ヤクルト関連の影響を除外して前年比 13.4%増
- 堅調な売上成長で上半期は 4.0%増、第 2 四半期は同一条件下<sup>(1)</sup>で 3.3%増
  - モロッコを除く、すべての報告対象事業部門が好調に伸び、堅調に推移
  - 業績を牽引した領域: Specialized Nutrition(専門栄養食品部門)、ウォーター部門、第 2 四半期に成長軌道に回復した EDP 北米
  - 為替はマイナスの影響
- 経常的営業利益率は同一条件下<sup>(1)</sup>で 51 ベーシスポイント増加の 14.27%
- モロッコの消費者不買運動が上半期に悪影響
- フリーキャッシュフローは 20.0%増加し 11 億ユーロに
- 2018 年度の通年予測を維持

<sup>(1)</sup> New Danone 同一条件下(Like for Like New Danone)での比較

## 2018 年度上半期主要ハイライト

100 万ユーロ(別途記載がない場合)	2017 年度上半期	2018 年度上半期	報告ベースの変動	New Danone 同一条件下の比較
売上高	12,200	12,498	+2.4%	+4.0%
経常的営業利益	1,717	1,784	+3.9%	+7.9%
経常的営業利益率	14.07%	14.27%	+20 bps	+51 bps
営業利益	1,583	1,089	-31.2%	
営業利益率	12.98%	8.71%	-427 bps	
経常的純利益:グループシェア	1,047	1,132	+8.2%	
純利益:グループシェア	975	1,204	+23.5%	
経常的 EPS(ユーロ)	1.68	1.76	+4.6%	
EPS(ユーロ)	1.57	1.87	+19.5%	
フリーキャッシュフロー	921	1,104	+20.0%	
営業活動によるキャッシュフロー	1,199	1,427	+8.0%	

本プレスリリースに記載されている「New Danone 同一条件下」の変動、経常的営業利益および利益率、経常的純利益、経常的所得税率、経常的 EPS、ヤクルト関連の影響、フリーキャッシュフロー、純有利子負債等に関する全記述は、IFRS で定義されている財務指標には一致しません。これらの定義および財務諸表との調整については、6 ページから 9 ページ(原文)に掲載されています。本プレスリリースに記載されている 2017 年度の第 1 四半期、第 2 四半期および上半期の数値は IFRS 第 15 号を適用しています。詳しくは 9 ページ(原文)の説明をご覧ください。

## CEO エマニュエル ファベールのコメント

「この上半期もダノンは、勢いある売上成長、利益率の大幅な改善、フリーキャッシュフローの増加の組み合わせにより、再び堅調な業績を示しました。多くの市場で不安定な状況が続き、予期せぬ逆風に巻き込まれる中でこの業績を達成できたことは、当社の事業の強みと継続的な財務規律を反映しています。この業績は、10億ユーロ規模の効率化プログラム『プロテイン(Protein)』の初年度である今年度に経費削減を達成し、当社ポートフォリオにおける成長軸の再調整と成長領域の拡大における顕著な進展に支えられたものです。第2四半期は、例外的状況にあるモロッコを除き、すべての報告対象事業部門で成長を達成しました。中国におけるSpecialized Nutrition(専門栄養食品部門)の需要は依然として高く、ウォーター部門は広範な領域で成長を果たし、EDP(Essential Dairy and Plant-Based)はWhiteWave社買収による利益と主要地域におけるチルド乳製品の既存事業の成長による改善を反映して成長軌道に回復しました。これにより私は通年予想に確信を持ちました。長期的には、前回の年次株主総会で発表した『ダノン2030年目標』に向けた取り組みを今年の夏から開始しました。この目標は、すべての人に持続可能な価値を創出し、共有するための独自の方法であるダノンのOne Planet. One Healthのビジョンの重要性を強化するものです」

## 2018年度半期業績

### 2018年度半期売上

単位:100万ユーロ (%を除く)	2017年度 第2四半期	2018年度 第2四半期	売上 増減	ボリューム 増減	2017年度 上半期	2018年度 上半期	売上 増減	ボリューム 増減
部門別								
EDP:インターナショナル	2,261	2,011	-2.4%	-8.0%	4,392	4,115	-0.8%	-5.6%
EDP:北米	1,328	1,247	+1.4%	+2.9%	1,970	2,439	+0.6%	+2.3%
専門栄養食品	1,756	1,831	+10.6%	+4.0%	3,450	3,644	+12.5%	+4.8%
ウォーター	1,361	1,325	+4.8%	+2.8%	2,388	2,301	+4.5%	+2.6%
地域別								
欧州および北米	3,623	3,453	-1.7%	-1.6%	6,272	6,764	-1.0%	-0.6%
その他の各国	3,084	2,961	+9.4%	+0.9%	5,928	5,735	+10.5%	+1.6%
<b>合計</b>	<b>6,707</b>	<b>6,414</b>	<b>+3.3%</b>	<b>-0.5%</b>	<b>12,200</b>	<b>12,498</b>	<b>+4.0%</b>	<b>+0.3%</b>

\* New Danone 同一条件下(Like for Like New Danone)

2018年第2四半期の連結売上高は64億ユーロで、New Danone 同一条件下で前年比3.3%増となりました。この売上成長には売上(金額)の3.8%増加が含まれ、売上(数量)の0.5%減少で相殺されています。モロッコにおける最近の消費者不買運動の影響を除くと、売上(金額)は4.3%増、売上(数量)は1.3%増で、売上(数量)の改善傾向を示しています。

報告ベースの売上では、2017年度第2四半期に対し4.4%減で、内訳は以下の通りです。

- 前年度のWhiteWave社の貢献に相当するペース効果で1.3%増(2017年4月1日から12日まで)
- 2017年8月のStonyfield売却による連結範囲の変動等で1.4%減
- 主に米国ドル、アルゼンチンペソ、ロシアルーブルに対するユーロの上昇による為替差損で7.6%減

### EDP (ESSENTIAL DAIRY AND PLANT-BASED) インターナショナル

EDP インターナショナルの第2四半期売上はNew Danone 同一条件下で2.4%減となり、これには売上(数量)の8.0%減少、売上(金額)の5.6%増加が反映されています。モロッコを除くEDP インターナショナルの売上は0.4%増で黒字に転じました。

モロッコでは消費者不買運動が続き、第2四半期の売上は約40%減となりました。ダノンは消費者の信頼回復に向け、新鮮な牛乳の原価販売を含む経済モデルの変更を行うという声明を発表しました。欧州における売上動向は、一部の国(英国、北欧、東欧)で堅調な伸びをみせたものの、フランスとスペインで厳しい状況が続き、第1四半期と同様に微減となりました。Activia ブランドおよびDanone ブランドは順次安定化を図り、ローカルブランド(特に、Light & Free、Les 2 Vaches、Fantasia)は強力な伸びを維持しまし

For more information, please contact:  
Corporate Communications: +33 1 44 35 20 75 – Investor Relations: +33 1 44 35 20 76  
Danone: 17, Boulevard Haussmann, 75009 Paris, France

た。Alpro の売上はイノベーションの加速により引き続き 10%の伸びとなり、Alpro が植物由来のヨーグルト代替品の分野で第 2 位の規模となっているフランスとスペインで最初の収益シナジーが現れています。CIS リージョンでは価格安定戦略が奏功し、引き続き売上は堅調に推移しました。ロシアでは、引き続きグローバルブランド (Activia、Danone) とローカルブランド (Prostokvashino、Danissimo) の製品ミックス改善とイノベーションの恩恵を受け、両セグメント共に強力な成長を示しています。中南米ではメキシコとアルゼンチンが好調です。ブラジルでは、トラック運転手のストライキが市場環境をさらに悪化させ、売上の減少が続きました。ブラジルで推進中の業績転換計画については、提供商品と流通モデルの再構築を行っており、順調な進展を見せています。

## EDP (ESSENTIAL DAIRY AND PLANT-BASED) 北米

EDP 北米は 4 四半期連続の改善を果たし、2017 年度第 2 四半期売上は成長軌道に回復しました。売上 (数量) の 2.9%増加を売上 (金額) の 1.5%減少が相殺し、売上は New Danone 同一条件下で 1.4%増 (Fresh Foods を除くと 2.7%増) となりました。

ヨーグルトは、供給拡大による収益向上と Danimals の Incredibles キャンペーン等の成功で、プロバイオティック、子ども用や植物由来のヨーグルトなどセグメントの成長および価格安定による製品イノベーションに牽引され、売上が増加し、市場を上回りました。植物由来の食品および飲料は、売上 (数量) と売上 (金額) で一桁台後半の成長を遂げました。ナッツベース製品の非常に大きな需要に支えられてカテゴリーが急成長しており、価格安定させたセグメントのイノベーションから恩恵を受けています。より強力なコミュニケーションキャンペーンは、Silk などの製品の需要引き上げにも役立ちました。コーヒークリーマーは第 2 四半期に大きく伸び、better-for-you (健康志向の) クリーマーと ready-to-drink (すぐ飲める) コーヒー (International Delight および Stok) の組み合わせキャンペーンによって急激な成長を示しました。付加価値の高いミルクにおけるダノンの存在感の拡大によって、Premium Dairy (プレミアム乳製品) がオーガニックミルクの過剰供給による価格圧力で衰退しているカテゴリーを上回ることを可能にしました。ダノンは引き続き Fresh Foods (生鮮食品) が好転するように注力していきます。

## SPECIALIZED NUTRITION (専門栄養食品部門)

第 2 四半期の Specialized Nutrition (専門栄養食品部門) の好業績は、Early Life Nutrition (乳幼児向け食品) と Advanced Medical Nutrition (医療用高度栄養食品) の両者に牽引されたものです。売上は New Danone 同一条件下で 10.6%増となり、売上 (数量) は 4.0%増、売上 (金額) は 6.6%増でした。

Advanced Medical Nutrition (医療用高度栄養食品) は第 2 四半期に一桁台半ばから後半の売上成長を示し、すべての地域とすべての製品カテゴリーがこの業績に貢献しました。Early Life Nutrition (乳幼児向け食品) は第 2 四半期に二桁台の伸びを見せ、主に約 30%の売上成長を達成した中国と、中南米、インド、アフリカの貢献増大によるものです。中国における売上 (数量) と売上 (金額) のバランスのよい貢献は、市場のダイナミックな需要、Ultra-Premium (ウルトラプレミアム) セグメントの着実な拡大、全直販チャンネルの成長と市場シェア獲得によって支えられました。一方、欧州の市場では、新製品の投入を控えて売上が減速しました。

## ウォーター部門

ウォーター部門は、すべての地域およびカテゴリーで引き続き勢いを維持しながら、一貫性のある広範な成長を続けています。売上は New Danone 同一条件下で 4.8%増となり、売上 (数量) は 2.8%増、売上 (金額) は 2.0%増でした。

欧州では、フランス国鉄のストの混乱がエビアンの売上に影響を与えたものの、継続的な製品イノベーションと北欧での気象関連の需要により堅調に成長しました。アジアは、インドネシア、トルコ、中国における Mizone の堅調な業績を背景に、イノベーションとマーケティング活動に支えられて地域全体で好調な売上を示しました。北米は一桁台後半の伸びを示し、この四半期も非常に好調でした。中南米の成長は、メキシコの悪天候の影響を受け、軟調が続いています。

## 2018 年度上半期の経常的営業利益率: 51 ベースポイント上昇 (New Danone 同一条件下)

2018 年度上半期のダノンの経常的営業収益は 18 億ユーロでした。経常的営業利益率は報告ベースで 20 ベースポイント上昇の 14.27% で以下が含まれます。

- WhiteWave 社からの 2017 年 1 月 1 日から 4 月 12 日までの貢献による希薄化の影響 (49 ベースポイント低下)
- 2017 年 8 月の Stonyfield の処分による、その他の連結範囲変更の影響 (8 ベースポイント上昇)。
- 為替変動による微小なプラスの影響 (9 ベースポイント上昇)

経常的営業利益率は New Danone 同一条件下で 51 ベースポイント上昇しました。この強力な改善は、とりわけ PET プラスチックの包装、米国の輸送費、僅かながら牛乳価格といったコスト増加の環境にもかかわらず達成されたものです。

この改善には以下が反映されています。

- 価格維持のイノベーションとポジティブなミックスに基づくダノンの収益性の高い成長モデル
- 主に WhiteWave 社の統合による相乗効果と、「プロテイン (Protein)」プログラム初年度で、現時点で 7,500 万ユーロを達成したことによる効率性向上
- 厳格なリソース配分の維持

経常的営業利益率 (%)	2017 年度上半期	2018 年度上半期	変動率 (New Danone 同一条件下)
<b>部門別</b>			
EDP: インターナショナル	8.15%	8.44%	+26 bps
EDP: 北米	11.69%	9.96%	-43 bps
専門栄養食品	24.32%	25.53%	+121 bps
ウォーター	12.15%	11.45%	-96 bps
<b>地域別</b>			
欧州および北米	15.31%	12.98%	-126 bps
その他の各国	12.77%	15.80%	+260 bps
<b>合計</b>	<b>14.07%</b>	<b>14.27%</b>	<b>+51 bps</b>

## 2018 年度上半期の経常的 EPS: 前年比 13.4% 増 (恒常為替レート。ヤクルトの取引を含まない)

100 万ユーロ (別途記載がない場合)	2017 年度上半期			2018 年度上半期		
	経常的	非経常的	合計	経常的	非経常的	合計
<b>経常的営業利益</b>	<b>1,717</b>		<b>1,717</b>	<b>1,784</b>		<b>1,784</b>
その他の営業収支		(134)	(134)		(695)	(695)
<b>営業利益</b>	<b>1,717</b>	<b>(134)</b>	<b>1,583</b>	<b>1,784</b>	<b>(695)</b>	<b>1,089</b>
金融支出	(134)		(134)	(115)		(115)
その他の金融収支	(66)	35	(31)	(60)	3	(57)
<b>税引前利益</b>	<b>1,516</b>	<b>(99)</b>	<b>1,417</b>	<b>1,608</b>	<b>(692)</b>	<b>916</b>
所得税	(459)	29	(431)	(475)	63	(412)
実効税率	30.3%		30.4%	29.5%		45.0%
<b>完全連結会社ベース純利益</b>	<b>1,057</b>	<b>(70)</b>	<b>987</b>	<b>1,134</b>	<b>(629)</b>	<b>504</b>
関連会社からの純利益	47	(2)	45	46	701	747
<b>純利益</b>	<b>1,104</b>	<b>(72)</b>	<b>1,032</b>	<b>1,180</b>	<b>71</b>	<b>1,251</b>
・グループシェア	1,047	(72)	975	1,132	72	1,204
・非支配持分	57	0	57	48	(1)	47
<b>EPS (ユーロ)</b>	<b>1.68</b>		<b>1.57</b>	<b>1.76</b>		<b>1.87</b>

**その他の営業収支**は6億9,500万ユーロの損失です。これは主に非現金費用6億6,100万ユーロによるものであり、内訳はモロッコ内におけるCentraleブランドの損害7,800万ユーロとCentrale Danoneの営業権の減損費用5億8,300万ユーロで、2018年4月に始まった継続的な消費者不買運動の結果です。

**金融支出**は、2017年上半期の1億3,400万から2018年上半期の1億1,500万ユーロへ絶対額が減少しました。これは主に純負債の米国ドル建て部分で為替の好影響を受けたことと、2017年10月にWhiteWave社の5.375%の優先債権の未払い分5億ドルを早期償却したことが反映されています。

2018年度上半期の**経常的税率**は29.5%で2017年上半期に比べ0.8ポイント減少しました。これは主に2017年12月に制定された米国の税制改革のプラスの影響によるものです。

**関連会社からの経常的純利益**は4,600万ユーロと安定しています。これは主に蒙牛乳業への参画が奏功したこと、ヤクルト株のダノン持分を2018年3月に21.3%から6.6%へ減少させたことを反映するものです。当該取引によって7億100万ユーロの非経常的なキャピタル・ゲインが生じました。**少数株主持分**は、Unimilkの所有権を93%から98%に増加させたことで4,800万ユーロに減少しました。

**経常的純利益**:2018年上半期の**グループ株式**は11億3,200万ユーロで前年比8.2%増でした。

**経常的EPS**は4.6%増の1.76ユーロで、恒常為替レートで12.8%増、ヤクルト取引の影響を除くと13.4%増です。

## 2018年度上半期のキャッシュフローと負債

フリーキャッシュフローは、昨年度と同様に合計3億6,300万ユーロ(売上高の2.9%)の資本支出があり、経常的営業利益が増加したことにより、2017年度上半期から20.0%増加して11億ユーロとなりました。

ダノンの純負債は、レバレッジ解消のプライオリティに則り、ヤクルト株の一部売却でフリーキャッシュフローを創出した結果、2017年12月31日から17億ユーロ減少し、2018年6月30日現在137億ユーロです。

## 2018年度見通し

(2018年2月16日および2018年4月18日発行のプレスリリースより)

今年度、ダノンは中期的な成長と短期的な効率化を切り離して注力することで、2020年度の野心的目標に向けてさらなる進展を遂げる予定です。また「プロテイン(Protein)」効率化プログラムの展開を継続し、WhiteWave社買収による相乗効果を引き続き追求します。これらの活動により、売上と利益の持続的成長を実現する能力を下支えしていきます。

### マクロ経済の見通し

ダノンは、市場の不安定な状況は続く想定しています。

2018年には原材料や包装材のコストが一桁台半ばで上昇すると見込んでいます。

- ミルク価格は全体で一桁台前半から半ばのインフレ
- 原油価格の回復によるPET価格の二桁台の上昇
- 砂糖や果物など、その他の原材料のインフレ傾向

また、為替変動、特に英ポンドの影響が続くと見込んでいます。

### 2018年度の通年予測

ダノンは引き続き成長の加速と、「プロテイン(Protein)」プログラム初年度である今年度、効率性の最大化に取り組んでいきます。

2018年には、さらなる売上拡大と経常的な営業利益率の改善により、2020年度の野心的目標に向けて邁進します。

**その結果として2018年は、ヤクルト関連の影響を除き、恒常為替レートで経常的EPSの二桁成長を目標としています。**